

*キリスト教会の出発点

歴史の教会は、「教会の誕生日」となったこの日を、ペンテコステ(五旬節、聖霊降臨祭)として記念している。クリスマス、イースター、ペンテコステが、教会の三大祭りである。

*約束を信じて祈る

ペンテコステの前、主イエスが、天に昇られる前の約束のことばは「待ちなさい」という命令である(1章4, 5節)。しかし、「ただ、待っていた」のではない。弟子たちは、心を一つにしてひたすら祈っていたのだ(1章14節)。私たちも心を一つにして、主の御心と一つになって、祈りに専念したい。私たちは主イエス様から大宣教命令を頂いた。私たちは、この素晴らしい福音を証しするために生きる群れだ。福音宣教に生きる共同体として、一つになって、与えられている多種多様な賜物を活かして、証し人として生かされている。主の約束を信じて、ひたすら祈り、待ち望む「信仰」が問われるのだ。

*聖霊降臨日のペテロ

ペンテコステの日に、御霊に満たされてペテロが語った説教に注目する。

ペテロは、聖霊が降臨された理由について、旧約聖書の預言者ヨエルの言葉が、約束通り実現したのだ！と説明している。終わりの日にすべての人に、主の霊が注がれ、異常な現象も起きる、と。「しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる」のだ。

ペテロは、説教の最後を次のように締めた。2章36節「ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」説教の終わりの言葉は、神様が遣わした救い主、キリストを殺したのはあなたがたなのだ、という迫りだ。ペテロの説教を聞いた人々は、「どうしたらいいのか」と問い掛ける。38、39節でペテロは答える。「・・・「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。・・・」

世界に向けて、福音を運ぶ教会は、まず、心刺され、悔い改めることから出発した。歴史的にも、リバイバルの出発は、真実な「悔い改め」から起こっている。ペテロは、2章40節「この曲がった時代から救われなさい。」と語った。

このペンテコステにもう一度、確かに与えられている聖霊なる神様が、私たちの内で豊かに働いて下さるように、御霊の満たしを祈り、日々、御霊に満たされて歩むことができるように祈り求めたい。そして、地の果てまで、主を証しする者として用いて頂きたい。